



【YouTube】QRコードを読み取ると本会議の映像が見られます。



(動画時間) 59分
43:03 委員長報告(脱特)

下川町議会脱炭素 推進調査特別委員会 経過報告

下川町議会脱炭素推進調査特別委員会は、令和4年3月18日、令和3年下川町議会定例会3月定例会最終日の本会議において設置しました。この間、下川町議会における脱炭素の行動指針に関する決議や、特別委員会を3回開催、道内視察調査を実施してきています。

中間報告は
こちらから



◆二セコ町、当別町及び三笠市視察調査(令和4年7月5日、7日※6日は北海道町村議会議員研修会に参加)
二セコミライ(SDGs街区)事業について(二セコ町)
2050年二酸化炭素実質ゼロ表明を令和2年に行なっており、一番の核となるのが高気密高断熱の取り組みで、湿度温度変化の管理などを進めていく。高気密高断熱の取り組み順位として、①躯体の断熱性強化②省エネ設備の導入③再エネ設備の導入、この順番が鉄則である。

総合体育館への災害対応型

再エネ設備導入事業について(当別町)

総合体育館災害対応型再生可能エネルギー等導入事業は、環境省の「防災拠点等への再生可能エネルギー等導入推進事業補助金」を活用し、町内の防災拠点の中で最大級の収容人員のある総合体育館に、緊急時だけでなく通常時も活用できる再エネ設備を導入した。当初、太陽光パネルは屋根に設置する予定であったが、防水や強度の問題から壁面に変更した。実績から、屋根の方が発電量は多いが、冬は雪による照り返しにより、壁に設置している方が発電量が多い。

ゼロカーボンの取り組みについて(三笠市)

平成23年度から室蘭工業大学と連携して、UCCG(石炭地下ガス化)の実験に取り組んでいる。

HUCCG(ハイブリッド石炭地下ガス化)は、石炭や木質バイオマスを活用して可燃性のガスを生産し、発電や水素の製造を行う事業となっており、同時に水素製造過程で発生する二酸化炭素を農業利用や地下貯

留を行い、二酸化炭素実質ゼロを目指している。現在は、水素の製造から供給までの仕組みや水素の販売価格など、トータルでの実現性を評価する調査を進めている。



三笠市：ゼロカーボンの取り組みについて担当者の説明



当別町：総合体育館の災害対応型再エネ設備視察



二セコ町：二セコミライについて担当者の説明

北海道町村議会議員研修会に参加しました

北海道町村議会議長会主催の「令和4年度北海道町村議会議員研修会」が7月6日に札幌市内の札幌コンベンションセンターで開催され、8名の議員が参加しました。研修講師である政治ジャーナリスト、泉宏氏から「参院選最終情勢分析と選挙後の政局展望」をテーマに講演をいただきました。今回の研修内容を今後の議会活動に生かしていきます。



研修講師の泉 宏氏